【看護福祉リハビリテーション学部 福祉リハビリテーション学科 作業療法専攻】カリキュラムマップ（2026年度入学生用）

2025.11

授与する学位：学士（医療福祉学）		ディプロマ・ポリシー
知識・理解	幅広い視野	DP1：人、自然、環境、社会、地域、国際について幅広い教養を有している
		DP2：作業療法分野において適切な知識や理解、そして技術を有している
		DP3：幅広い視野をもって合理的・批判的に判断できる
汎用的能力	基本的能力	DP4：適切な日本語運用力を修得し、活用することができる
		DP5：母語以外の特定の外国語について基礎的なスキルを修得し、活用することができる
		DP6：基礎的ICTの知識・スキルを修得し、適切に活用することができる
		DP7：数的データを含む多様な情報を適切に収集・分析し活用することができる
態度・志向性	豊かな人間性	DP8：仏教精神を理解し、自らの理解・判断・行動を見つめ直す姿勢を身につけている
		DP9：多様性の尊重と共生の精神を有している
		DP10：日本の伝統文化を深く理解し、その成果を自分の生活に生かすことができる
	態度・志向性	DP11：高い倫理観を持ち、思いやりの心を忘れずに他者と接することができる
		DP12：作業療法分野の知識・理解・技能等に基づき、対話や議論を重視し、他者・他文化との相互理解に努めることができる
		DP13：作業療法分野の知識・理解・技能等を活用して、社会に参画する態度を有している
統合的な学習経験と創造的思考力	応用的能力	DP14：自らの生涯を見通す視野を持ち生涯を通じて学び続け、キャリア形成をする力を備えている
		DP15：現代社会の諸問題を解決するために、作業療法分野の専門的知識と技能を活用し、問題解決に実践的に取り組むことができる

学科目	科目の主題	科目の到達目標	ディプロマポリシーの項目番号 ○：DP達成のために設定された到達目標と関連性がある ※1つの達成目標に対して最大3個まで														
			DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9	DP10	DP11	DP12	DP13	DP14	DP15
包括的ヘルスケア論	包括的な視点で地域・在宅で生活している人々に対する保健・医療・福祉の施策の動向を学ぶ。	1. 我が国の少子高齢化に伴う問題を理解する。	○								○		○				
		2. 地域包括ケアの理論と制度を学ぶ。	○								○		○				
		3. 地域包括的ケアの実際を学ぶ。			○							○			○		
生命倫理	人の生命の尊厳と基本的人権、尊厳死などについて学び、言語聴覚士として基本的倫理原則・倫理理論を学ぶ。	1. 人としての命の尊厳と基本的権利を対人援助職の視点から理解できる。			○					○						○	
		2. 対人援助職として倫理的原則、生命・医療倫理を理解している。								○				○		○	
		3. 日常生活の場の問題解決を倫理的判断にもとづいて考察できる。			○							○					○
ターミナルケア	ターミナル期の問題を理解し、現状を学んだうえで、いかにターミナル期の患者に向き合うかについて、学修する。	1. ターミナル期の患者が抱える問題を理解する。								○	○		○				
		2. ホスピス運動や緩和ケアの現在について理解する。			○						○		○				
		3. コミュニケーションスキルや死生観（基本的な心構え）などを学ぶ。	○							○			○				
専門職の連携（基礎）	医療福祉機関をはじめとした地域の生活者の支援に関わる職種の役割を理解する。	1. 他職種と連携し地域における包括的なヘルスケアシステムを担い人の命を救う専門職としての資格であることを理解する。		○											○		○
		2. 地域における包括的ヘルスケアシステムを担う他の専門職を理解する。									○		○	○			
		3. 他職種の視点を通して将来について明確な自己像を描けるようになる。													○	○	○
専門職の連携（応用）	他職種との連携協働の実際を学習する専門職連携に関する発展的な科目であり、実践力のある専門職として就職するための総まとめを学ぶ。	1. 他職種間の専門的かつ高次なコミュニケーションをはかれるようになる。			○						○			○			
		2. 実例を取り上げることで、より具体的で実践的な援助方法を理解する。			○									○			○
		3. 専門職としての自己意識を高め資格取得に向けて意欲向上を目指す。			○									○		○	
仏教と医療福祉Ⅰ	建学の精神に基づき、社会福祉やリハビリテーションの領域を「医療福祉」ととらえ、仏教と医療福祉の関係を考える。医療福祉の側面からは、その価値基盤と仏教信仰の調和的関係構築が問題になる。こういった仏教と医療福祉の協働について学ぶ。	1. 仏教医療福祉についての基礎的知識を身につける。								○	○		○				
		2. 仏教的価値と医療福祉の価値が協働する場面について学ぶ。								○			○	○			
		3. 仏教と医療福祉実践の実際について学ぶ。												○	○		○
仏教と医療福祉Ⅱ	医療福祉の現場において対人援助を行う場合、仏教に基づく人権尊重の価値観は、援助の質に対して影響を与えるものである。より高い専門性を備えた対人援助職のあり方について、実際の事例を参考に学生同士の学び合いから理解を深めていく。	1. 仏教医療福祉についての基礎的知識を身につける。								○	○		○				
		2. 仏教的価値と医療福祉の価値が協働する場面について学ぶ。								○			○	○			
		3. 仏教と医療福祉実践の実際について学ぶ。												○	○		○
医療福祉連携論	近年、医療から介護制度を含む福祉へのシームレスな連携が求められている。医療と福祉について理解を深め、それらの連携の実際と理想を学ぶ。	1. 医療の実際について理解する。			○						○						○
		2. 福祉の実際について理解する。			○						○						○
		3. 医療と福祉との連携の実際と理想を理解する。			○						○						○
日常生活支援学	ADLの概念、リハビリテーション医学における重要性を学び、日常生活活動の範囲・より幅広い日常生活関連動作、QOLなどの概念との関係も理解し、対象者の日常生活を支援する専門家としての視点を学ぶ。	1. ADL・APDL・IADL・QOLの概念や範囲を説明できる。		○	○												○
		2. ICIDH、ICFについて説明できる。		○	○												○
		3. 人の生活におけるADLとその他の活動との関係性重要性を説明できる。		○	○												○
地域災害リハビリテーション	災害時の医療活動が行政の中で、どのように位置づけられ、その中のリハビリテーション支援活動のあり方を理解する。また、災害時のリハビリテーション支援活動における作業療法士の役割を学ぶ。	1. 災害時のリハビリテーション支援が行政の中でどのように位置づけられるのか理解できる。		○	○												
		2. 災害フェーズに合わせたリハビリテーション支援のあり方を説明できる。		○	○												
		3. 災害時のリハビリテーション支援活動における作業療法士の役割を理解する。		○	○												
障害者福祉	障害者福祉サービスのこれまでの歴史、社会背景を通じて、現状の障害者福祉の意義と課題について学ぶ。	1. わが国の障害者に関する歴史と施策に関して理解し、必要な行動がとれる。		○										○	○		
		2. 障害者に対する福祉サービスの種類、目的、その効果について理解し専門職を目指す者として活用できる。		○											○		○
		3. 障害者福祉サービスと他の福祉サービスと比較し、総合的に理解できる。													○		○
基礎ゼミⅠ	作業療法士を目指した学習の導入として、自ら考え学ぶという態度、学士力養成のための基礎的な能力を学ぶ。	1. 自校史や建学の精神である仏教精神を理解している。						○		○		○					
		2. 作業療法を自立して学習することができる。				○		○	○								
		3. 個人面談による生活への順応や学生間・教員の人間関係を形成している。	○							○	○						
基礎ゼミⅡ	作業療法士を目指した学習の導入として、自ら考え学んだことを、自らの言葉でまとめ発表する力を身に着ける。	1. 自校史や建学の精神である仏教精神を理解している。						○		○		○					
		2. 作業療法法を自主的に学び発展させることができる。				○		○	○								
		3. 他者の意見を尊重し自らの意見を述べることで人間関係を発展させる。	○							○	○						
災害看護論	災害支援活動を行うために必要な災害の定義、災害サイクルにおける各期の特徴、人や社会への影響、災害時の特徴的な健康課題や看護ニーズを学び、災害の及ぼすマイナスの影響を少なくする活動、看護職の役割を深める。	1. 災害看護の概念が理解できる。	○	○													
		2. 災害時の看護ニーズが理解できる。		○	○										○		
		3. 災害の予防対策が理解できる。	○	○													
人体の構造と機能Ⅰ	人体の構造と機能の基本的な医学知識を、分野ごとに分けて解説する。そして、それぞれの生理学について学習を深め、疾患の理解につながるよう、臨床的視点を学ぶ。	1. 人体は細胞、組織、器官、器官系が階層的・体系的に集合して成り立っていることを理解できる。		○													
		2. 人体を支える各部の骨や骨格の名称と構造を理解し、体内での配置をイメージできる。		○													
		3. 人体の運動を生む筋の名称や位置、作用を理解し、身体運動を筋のはたらきから考察できる。		○													
人体の構造と機能演習Ⅰ	人体の骨や骨格と主要な関節がもつ構造上の特徴、人体で表在する主要な筋の位置や付き方と作用について、人体模型や骨標本等を用いた演習作業を行い、実物を観察することによって理解を深める。	1. 人体の骨や骨格と主要な関節がもつ構造上の特徴を理解できる。		○													
		2. 人体で表在する主要な筋の位置や付き方と作用を理解できる。		○													
		3. 人体の臓器がもつ基本的な組織構造を理解できる。		○													
人体の構造と機能Ⅱ	リハビリテーションの対象となるヒトの「生理機能」を理解するために、人体の生理機能、特に運動機能とその調節及び植物生理を中心とした内臓機能とその調節にについて学ぶ。	1. 組織・細胞の基礎について説明出来る。		○													
		2. 神経系の生理学的機能について説明出来る。		○													
		3. 筋系の生理学的機能について説明出来る。		○													

学科目	科目の主題	科目の到達目標	ディプロマポリシーの項目番号 ○：DP達成のために設定された到達目標と関連性がある ※1つの達成目標に対して最大3個まで														
			DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9	DP10	DP11	DP12	DP13	DP14	DP15
人体の構造と機能演習Ⅱ	本演習は、人体生理機能について，代表的な生体機能の測定を行い、生体機能原理の深い理解ができるように自ら直接調べることで基礎的知識の実験的理解や洞察能力を習得する。	1．循環（血圧・心拍数の測定、心電図）の計測ができる。		○													
		2．呼吸（呼吸数・呼吸機能の測定）の計測ができる。		○													
		3．感覚（皮膚感覚、嗅覚機能の測定、視覚機能の測定）の計測ができる。		○													
臨床心理学	臨床心理学の基本的な概念や考え方についてまなぶ。	1．臨床心理学の基本的概念を理解する。		○													
		2．種々の心理療法を学ぶ。		○													
		3．心理臨床面接での応答や姿勢を学ぶ。		○									○				
人間発達学	人の生涯にわたる心身の発達過程を、心身機能、活動、参加の視点から理解し，乳幼児期、学童期、青年期、成人期、高齢期の各ステージの特徴と生涯発達の意味を理解する。各ステージに生じやすい発達上、健康上の問題を解決するための基礎知識を学ぶ。	1．人間の行動を「発達」という視点から考え、乳幼児期、学童期、青年期、成人期、高齢期の特徴を知ることができる。		○													
		2．人間発達の道筋に個人差があることを理解することができる。		○													
		3．人間の発達を支援するために必要なことを理解できる。		○													
運動学	運動の力学的な観点、運動に必要な筋・骨格系、神経系、姿勢、歩行について理解すること、また、臨床においての作業療法実践の視点から運動学、運動力学の基礎的な知識を学ぶ。	1．運動力学の関節の構造と分類から運動を理解および説明できる。		○													
		2．筋の構造と収縮様式からの運動を理解および説明できる。		○													
		3．神経構造と神経伝達・運動制御の観点から運動を理解および説明できる。		○													
臨床医学総論	医療人として必要な、医学の基礎的項目、倫理的問題、社会的問題などを学習する。医学の歴史、健康・障害の概念（ICFなど）、日本の人口構成、日本人の死因、要介護の原因などを学習し、現在までの医学の成り立ち、医療の現状をまなぶ。	1．臨床医学の分野等を網羅的に理解する。	○	○											○		○
		2．臨床医療の現場で求められる医の倫理を理解する。	○	○											○		○
		3．医療人としての基本を学習する。	○	○									○		○		○
内部障害と臨床医学	内科学と薬理学の基礎知識を学習する。内科学では、基本的な症候学、診断学及び治療学、循環器疾患、呼吸器疾患、代謝性疾患の最新の知識をまなぶ。薬理学では、薬物の使用方法、作用機序を理解することにより、正しい薬物療法の知識を修得する。	1．内科疾患でみられる各種の病態と症状を理解できる。		○	○											
		2．日常診療で用いられる主要薬物の使用方法、作用機序、適応症、注意すべき点・禁忌などが説明できる。		○	○										○		
		3．必要に応じて医師や看護師など他の医療スタッフと適切に連携することができる。		○	○									○	○		
精神障害と臨床医学	精神障害・精神医学用語についての概要を理解し，精神医学的なものの見方を学ぶ。	1．有機的な生身の健康集団の中で、多くの具体的精神疾患事例を参照しながら、健康とはどう違うか、あるいは同じかについて考える。		○	○												
		2．精神障害を生じさせるさまざまな疾患の症状、その成因、診断、について説明することができる。		○	○										○		
		3．精神障害を生じさせるさまざまな疾患の対応、治療について説明することができる。		○	○										○		○
神経・筋系障害と臨床医学	人体の神経機能と神経疾患についてリハビリテーション領域で必要となる基礎的および臨床的知識を学習する。	1．ヒトの神経回路の特徴（種類・形態・機能）と、その障害により出現する症状・徴候との関連を概説できる。		○											○		○
		2．各神経疾患において、リハビリテーションの対象となる症状と必要な治療の関係を理解することができる。		○											○		○
		3．各神経疾患における神経障害と症状・徴候との関係を統合的に理解し、疾患や患者に接する専門職の倫理観・基礎的知見を養うことができる。		○											○		○
運動器障害と臨床医学	整形外科疾患の治療やリハビリテーションなど基本的知識をまなぶ。	1．多彩な整形外科疾患の病態、診断に関する概要を理解し、説明することができる。		○	○												○
		2．整形外科疾患の治療、予後に関する概要を理解し、説明することができる。		○	○												○
		3．整形外科疾患におけるリハビリテーションの診断と治療に応用できるようになる。		○	○												○
小児の障害と臨床医学	心身の機能と環境に基づく健康，疾病の予防，発症，治癒に関する知識や個人と家族の発達過程に関する知識を理解し、小児の特性を考慮し、小児特徴的な疾患について臓器別に病態、治療をまなぶ。	1．成長と発達を理解する。		○										○	○		
		2．小児の特徴的な疾患について病態を説明できる。		○										○	○		
		3．疾病の予防、治療、生活指導を説明できる。		○										○	○		
老年期の障害と臨床医学	加齢に伴う様々な変化を理解すると共に、作業療法との関連性を学ぶ。	1．加齢に伴う生理的、身体的、精神的変化ならびに高齢者特融の疾患を理解する。		○										○	○		
		2．高齢者に対して健康維持・増進と日常生活のQOL向上をはかるための適切な介入が行える。		○										○	○		
		3．高齢者に対して健康維持・増進と日常生活のQOL向上をはかるための適切な指導が行える。		○										○	○		
栄養学	リハビリテーションに栄養学が必要であることを理解し、栄養学の基礎である栄養素、消化吸収、エネルギー代謝、運動時の食事などの知識を学ぶ。	1．栄養学の基礎知識を理解する。	○														○
		2．リハビリテーションの現場で対象者に合わせたエネルギー消費量の栄養学を活用することができる。		○	○										○		
		3．リハビリテーションの現場で対象者に合わせた栄養摂取の栄養学を活用することができる。		○										○	○		
安全管理と救急処置	救命救急の実際及び救命救急医療におけるリスクマネジメントについまなぶ。作業療法士及び作業療法士の関わりも含め、緊急を要する病態や疾患・外傷の基礎的な知識と考え方、心肺蘇生・応急処置について学ぶ。	1．救急救命医学について対象となりうる疾患、外傷について理解し説明できる。		○									○				○
		2．救急救命医学における作業療法士の関わりを理解し説明できる。		○									○				○
		3．一次救命処置、各手当が実践できる。		○									○				○
リハビリテーションの理念	作業療法士としての学びを始めるに当たり、疾患の成り立ちや治療に関する専門知識を学ぶ前段階として、専門職として基盤となるリハビリテーション医療の骨格をまなぶ。	1．リハビリテーション医療の歴史・理念・原則を理解する。		○										○	○		
		2．リハビリテーションの対象となる疾患・障害について理解する。		○										○	○		
		3．わが国におけるリハビリテーション医療の現状と課題を理解する。		○										○	○		
社会福祉の原理と政策Ⅰ	社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論の理解を基礎とし、そこに至る社会福祉の歴史的展開の過程と成果としての社会福祉の理論を学ぶ。	1．現代の社会問題について理解する。		○										○			○
		2．現在の福祉政策を捉える基本的な視点を理解する。			○										○		○
		3．人々の生活上のニーズと福祉政策の過程を結びつけて考えることができる。			○												○
公衆衛生学	公衆衛生学の歴史と健康施策と人々の暮らしにおける健康維持の役割の関係および健康指標などを学ぶ	1．公衆衛生の歴史と人々の暮らしにおける健康維持の役割を理解している		○							○						
		2．公衆衛生に基づいた健康施策とその役割が理解できる		○											○		
		3．地域の特性のアセスメントの基本的能力を習得している		○											○		
作業療法学概論	作業療法の学問的背景から作業の考え方から始まり、作業療法の歴史、対象者のとらえ方や作業療法の原理や定義と実践課程を学び、各領域の作業療法についてまなぶ。さらに医の倫理を踏まえた医療専門職としての態度を学ぶ。	1．作業療法の原理や定義を説明できる。		○	○									○			
		2．治療手段としての作業及び目的としての作業を説明できる。		○	○									○			
		3．作業療法学で用いるクリニカル・リーズニングの概要を説明できる。		○	○										○		
基礎作業学	作業療法の基礎である「作業」について理解する。また治療手段としての各種作業活動の体験をし、基本的知識や技法、指導・援助方法を習得するとともに作業療法における作業とは何かを学ぶ。	1．作業の定義と分類を説明し、各種作業活動の意味を考える事ができる。		○													
		2．各種作業活動に用いる材料、道具、工程を説明できる。		○													○
		3．各種作業活動の作業分析の方法を学び、作業分析が行える。		○											○		○
作業療法技術演習	作業療法実践の中でクライエントの目的に合ったクラフト活動及び日常生活活動を選び、利用するために必要となる、要素技能の作業分析、活動分析、作品や物品の管理、準備、指導方法の工夫などの基本的な事柄を学ぶ。	1．クラフトの制作及び日常生活活動を通して、簡単な活動分析を行い、その活動が持つ特性や必要となる要素技能、要素技能の段階付けなどについて説明できる。	○	○											○		
		2．クラフト制作及び日常生活活動について材料、道具、手順に関する知識を得て、説明できる。		○										○	○		
		3．治療目的に合わせた活動を考案できる。		○	○										○		
作業療法管理学	医療・保健・福祉施設等の作業療法部門やリハビリテーション部門における、良質なサービス提供や組織の管理・運営に必要な関連法規、組織管理、情報管理、業務管理、人材育成、職業倫理、臨床実習管理などの基礎的知識を身につける。	1．作業療法サービス提供に関する施設基準や診療報酬を説明できる。		○										○	○		
		2．組織の管理・運営に関わる観点（安全・業務・人材・情報・倫理）を説明できる。		○										○	○		
		3．特定領域の作業療法部門の開設プランニングができる。		○										○	○		
作業療法評価学	身体障害及び精神障害領域での作業療法における評価について学ぶ。対象者の生活における主訴に対して、作業遂行状況における疾病や障害の影響を抽出し、対象者の作業能力を踏まえて作業療法で介入すべき課題について理解することができる。	1．作業療法における「評価」の意義を説明できる。		○	○									○	○		
		2．様々な領域の作業療法における評価の特徴と目的について理解し、説明・実施できる。												○	○		
		3．再評価・記録・報告の必要性、重要性について理解し、説明できる。												○	○		
作業療法評価学演習	実際に作業療法士の診療に参加し、作業療法の評価について学ぶことを目的とする。対象者に対して観察や基本的な検査・測定による評価を行い、その評価結果を分析し、そのプロセスや結果を他者に伝える一連の流れを体験を通じて学ぶ。	1．各種評価の意味を理解することができる。		○	○									○	○		
		2．各種評価を実施、結果を分析し、作業療法プログラムに反映することができる。												○	○		○
		3．正常画像と対比させ、代表的な疾患の画像所見を指摘できる読影能力を習得することができる。												○	○		○

学科目	科目の主題	科目の到達目標	ディプロマポリシーの項目番号 ○：DP達成のために設定された到達目標と関連性がある ※1つの達成目標に対して最大3個まで														
			DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9	DP10	DP11	DP12	DP13	DP14	DP15
精神機能作業療法学	精神障害作業療法における評価の特性と必要性を理解し、作業療法の目的や実施プロセス等の基本知識を身につけることによって、臨床で必要な評価技法を学ぶ。	1. 精神障害作業療法における評価のプロセスを説明できる。		○	○									○	○		
		2.　臨床場面で使用頻度の高い各種検査法の特徴とその実施方法を演習を通して学び説明できる。												○	○		○
		3. 疾患の特徴を踏まえた作業療法介入・支援のあり方を理解できる。		○										○	○		
精神機能作業療法学演習	精神機能作業療法治療学で学修した知識を臨床実践につなげていくための技術習得を学ぶ。	1. 精神障害領域の作業療法評価法を実施できる。		○											○		
		2. 事例を通して作業療法評価及び介入計画立案ができる。		○											○		○
		3. 自己あるいはグループによる討議結果を適切に他者に伝える事ができる。		○											○		○
日常生活支援学演習Ⅰ	日常生活に関する基礎的な知識を整理し、障害を持つ者および障害を持つおそれがある者に対する日常生活活動（ADL）の支援および治療法をまなぶ。	1. 障害をもつ者に対する基本動作の支援（介助を含む）・治療法を説明し、おこなうことができる。		○										○			○
		2. 障害をもつ者に対して適切に基本動作を介助できる。		○										○			○
		3. 基本動作、ADL動作における疾患別特性を説明できる。		○										○			○
日常生活支援学演習Ⅱ	日常生活に関する基礎的な知識を整理し、日常生活活動とその障害に関する作業療法評価技法、及び介入技法について学生間の演習を通し、対象者の日常生活を支援する専門家としての基本的思考をまなぶ。	1. 日常生活活動を構成することに必要な諸機能についてボトムアップ的思考から列挙することができ、日常生活活動能力を推測することができる。		○											○		
		2. 実際の日常生活活動場面を観察し、諸機能を推測することができる。		○	○										○		
		3. トップダウン的思考とボトムアップ的思考の両側から対象者の必要な日常生活活動の目標設定をおこなうことができる。		○	○										○		
高齢期作業療法学	高齢期の作業療法評価・治療についての知識・技術の理解を深め、適切な高齢期の作業療法治療をまなぶ。	1. 高齢期作業療法の評価・治療について選択のプロセスを理解できる。	○	○										○			
		2. 高齢期作業療法の具体的な評価・治療プランを提示できる。		○	○									○			
		3. 高齢期作業療法の評価・治療の実践ができる。			○								○				○
高齢期作業療法学演習	高齢期の作業療法評価法、治療法を理解したうえで、事例を通じより実践レベルの高齢期作業療法の知識・技術についてまなぶ。	1. 事例を通じ、高齢期の作業療法評価を選定できる。	○	○										○			
		2. 高齢期の作業療法評価を実施し、結果を統合・解釈できる。		○	○									○			
		3. 対象事者の協力を得て、高齢期の作業療法の治療法を実践できる。			○								○				○
身体機能作業療法学Ⅰ	身体障害領域の作業療法評価を理解したうえで，疾患の特徴に合わせた作業療法治療法を選定し，実践できるための知識・技術を学ぶ。	1. 身体障害領域の基本的な作業療法治療法を説明できる。		○										○	○		
		2. 疾患特性に合わせた作業療法治療法を説明できる。		○										○	○		
		3. 事例を通じ，選定した作業療法治療法を実践できる。		○										○	○		
身体機能作業療法学Ⅱ	脳卒中や頭部外傷などによって生ずる軽度意識障害・注意・記憶障害、失語・失行・失認、遂行機能障害等の高次脳機能障害について学ぶ。	1.　高次脳機能障害の作業療法評価の原則および理論を述べることができる。		○										○	○		
		2. 高次脳機能障害の症状を列挙し、大脳皮質や皮質下の機能ネットワークと関連づけて説明できる。		○										○	○		
		3.　事例の評価結果を基に作業遂行上の利点や問題点の列挙と目標設定ができる。		○										○	○		
身体機能作業療法学Ⅲ	運動学，作業療法評価学で習得した知識や技術を基に身体障害領域における主要疾患や病態を持つ対象者の作業療法評価についてまなぶ。	1. 医学的記録、情報収集について説明できる。		○										○	○		
		2. 観察法、面接法について説明し、実施できる。		○										○	○		
		3. 身体障害領域で用いられる各種評価の知識と技術を習得できる。		○										○	○		
身体機能作業療法学演習Ⅰ	事例を通じて，より実践的な身体障害領域の作業療法治療法の知識を学ぶ。	1. 事例を通じ、身体障害領域の作業療法評価計画を立案できる。		○										○	○		
		2. 対象事例の協力得て、身体障害領域の作業療法評価実践し，結果を統合・解釈できる。		○										○	○		
		3. 事例を通じ、身体障害領域の作業療法治療法を選定できる。		○										○	○		
身体機能作業療法学演習Ⅱ	軽度意識障害・注意・記憶障害、失語・失行・失認、遂行機能障害等の高次脳機能障害の作業療法介入の知識を学ぶ。	1. 高次脳機能障害の治療原則および治療理論を述べることができる。		○										○	○		
		2. 高次脳機能障害の症状を列挙できる。		○										○	○		
		3. 記憶障害・失語症・失認症・失行症・半側空間無視の概念・評価・日常生活場面での困難さ・介入原則を述べることができる。		○										○	○		
発達期作業療法学	人間発達学で学んだひとのさまざまな発達段階とその関連性を発展させ、発達障害に対する作業療法の概要と小児期における作業及び遂行要素の発達、治療としての遊びについて学ぶ。	1. 各種評価の意味を理解することができる。		○										○	○		
		2. 各種評価を実施することができる。		○										○	○		
		3. 評価をもとに治療プログラムの立案ができる。		○										○	○		
発達期作業療法学演習	人間発達学、発達障害作業療法評価学・治療学で学んだひとのさまざまな発達段階とその評価・治療法を発展させ、臨床に基づいた知識と技術をまなぶ。	1. 疾患に必要な評価を列挙し、評価結果に基づいた治療プログラムの立案ができる。		○											○		○
		2. 対象児・者と適切に関わることができる。		○											○		○
		3. 治療として用いる道具や遊具について、説明することができる。		○											○		○
終末期作業療法学	すべての医療従事者に求められる基本的緩和ケアと終末期作業療法について学ぶ。	1. 終末期に対する作業療法の役割を理解し、必要な評価や支援を実施するための知識と技術を学ぶ。		○											○		○
		2.　生命を脅かす病をもつ人の身体的・心理的・社会的特徴を述べることができる。		○											○		○
		3.　痛みをはじめとする主な身体症状、精神症状とその治療、リハビリテーションについて述べることができる。		○											○		○
義肢装具に関わる作業療法	上肢装具と下肢装具の構造や特徴について学ぶ。	1. 義手、義足の構造、種類、機能、特徴を説明できる。		○											○		○
		2. 義手、義足の適合について説明でき、適合検査を実施できる。		○											○		○
		3. スプリントの評価から作成の一連プロセスを説明できる。		○											○		○
認知症の作業療法	認知症高齢者を含めた虚弱・障害高齢者に対する作業療法の概要と評価を理解する。認知症の臨床像とこれからの作業療法のあるべき役割について学ぶ。	1.　認知症について説明出来る。		○											○		○
		2. 認知症の作業療法評価を理解し、対応を学ぶ。		○											○		○
		3. 認知症の作業療法の役割について説明できる。		○											○		○
子どもの作業療法	小児領域に携わる作業療法士がどのようなこどもの作業療法を実施しているかについて学ぶ。	1.　子ども生活動作について理解できる。		○											○		○
		2.　子ども作業療法について説明できる。		○											○		○
		3.　子ども作業療法に参加し、実践してみる		○											○		○
音楽療法	音楽表現に関する基本的な楽器の知識や技術について学ぶ。また、しょうがいを持つ子ども・成人や高齢者その他病気を抱えたクライアントに対し、意図的で継続的な補完治療としての音楽を活用する「音楽療法」の知識と技術をまなぶ。	1. 保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する。	○										○				
		2. 音楽表現等の表現活動に関する知識や技術を習得する。		○										○			○
		3. 表現活動に係る教材等の活用及び作成と、保育の環境構成及び具体的展開のための技術を習得する。		○									○				
国際リハビリテーション	海外諸国の歴史や文化背景を踏まえ、他国の保健・医療事情やリハビリテーションについて学ぶ。	1. 海外の保健・医療・福祉の現状および作業療法教育システムについて理解できる。		○		○	○										
		2. 海外の作業療法実践を見学し、対象者や作業療法の多様性を理解できる。		○		○	○										
		3. 海外の作業療法学科の学生と相互交流を体験し、日本の作業療法について説明できる。			○	○	○										
京都伝統文化作業技術論	京都の伝統文化を活かした作業活動の治療的応用の知識と技術を学ぶ	1. 作業活動を行う基本的技術・知識（道具・材料の使用・管理，工程等）を身につける。	○									○					○
		2. 作業活動について包括的作業分析を行えるようになる。		○								○					○
		3. 京都の伝統文化を活かした作業活動を地域医療や在宅医療で活用できるようになる。		○								○					○
地域・在宅作業療法学Ⅰ	障害を有する者、障害を有するおそれの高い者、健常な者を含む地域で暮らす全ての人の地域生活の営みを支援する作業療法士に必要な知識をまなぶ。	1. 地域リハビリテーションおよび地域作業療法の概念を述べることができる。	○		○												
		2. 地域包括ケアシステムについて説明できる。		○													○
		3. 地域で暮らす者を支援する際に関わる法・制度を説明することができる。		○	○												○
地域・在宅作業療法学Ⅱ	地域支援における作業療法士の役割について学び、地域住民が健康状態や障害の有無にかかわらず、安心・安全に生活を送るための支援について学ぶ。	1. 健康の社会的決定要因を説明できる。	○		○												
		2. 地域介入の必要性に応じた健康支援計画を立案できる。		○													○
		3. 専門職として地域に貢献する視点を身に付ける。		○	○												○
見学実習	臨床現場の見学により、作業療法士の対象者対応、作業療法の実施過程、またリハビリテーション及び医療の臨床過程を知り、作業療法士としてのアイデンティを構築するとともに、医療従事者としての心構えを学ぶ。	1. 実習生として真摯な見学姿勢で臨むことができる。		○	○									○	○		○
		2. 学内で学修した基礎的な作業療法、医学知識と臨床現場での実践をつなげて考えることができる。		○	○									○	○		○
		3. 対象者や臨床実習指導者と適切なコミュニケーションを取ることができる。		○	○									○	○		○
地域実習	地域におけるリハビリテーション及び作業療法の目的と役割・機能、また、医療機関との連携、地域包括ケアシステム、多職種連携等について学ぶ。	1. 地域作業療法実施施設の組織と役割を理解する。		○	○									○	○		○
		2. 作業療法士および関連職種、部門の役割とその連携について理解する。		○	○									○	○		○
		3. 対象者に関わる必要な情報情報を収集し、考察することができる。		○	○									○	○		○

学科目	科目の主題	科目の到達目標	ディプロマポリシーの項目番号 ○：DP達成のために設定された到達目標と関連性がある ※1つの達成目標に対して最大3個まで														
			DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9	DP10	DP11	DP12	DP13	DP14	DP15
評価実習	臨床実習指導者の指導、監督の下、対象者に対して情報収集、作業療法評価の計画から一部実施、結果の統合と解釈、最終的に作業療法介入課題と目標設定までを体験学修する。	1. 作業療法の役割の理解と説明ができる。		○	○									○	○		○
		2. 適切な評価項目を選択できる。		○	○									○	○		○
		3. 評価結果から全体像を把握し、科学的推論と臨床推論に基づき統合と解釈、作業療法目標を設定できる。		○	○									○	○		○
総合臨床実習Ⅰ	実習指導者の指導の下、担当症例の検査・測定等の評価及び問題点の抽出を行い、治療プログラムの立案を行う。作業療法全技術の臨床現場での能力達成度の確認、職業人としての態度をまなぶ。	1. 保健医療における倫理的判断に基づいた行動ができる。		○	○									○	○		○
		2. 医療・保健・福祉・教育への探求心と作業療法に取り組む実行力をまなぶ。		○	○									○	○		○
		3. 医療チームの一員として他者・他職種と連携し協働する能力と態度をまなぶ。		○	○									○	○		○
総合臨床実習Ⅱ	身体障害領域、高齢期障害領域、精神障害領域、発達障害領域いずれかの作業療法実施施設において実習指導者の指導の下、担当症例の検査・測定等の評価及び問題点の抽出を行い、治療プログラムの立案を行う。	1. これまでの実習で得られた知識・技術をもとにして作業療法士の役割を知る。		○	○									○	○		○
		2. 様々な施設での作業療法の特徴を理解することを目標とする。		○	○									○	○		○
		3. 作業療法全技術の臨床現場での能力達成度の確認、職業人としての態度を習得する。		○	○									○	○		○
臨床実習事前事後評価	患者に接する際の作業療法士としての基本的な姿勢や問診（医療面談）に必要な知識や方法についての講義を行うとともに臨床事例を基にしたロールプレイングを重ねることにより臨床実習で必要な作業療法評価・技術をまなぶ。	1. 臨床実習に必要な心構え、マナーを理解できる。		○	○									○	○		○
		2. 臨床実習に必要な作業療法評価知識、技術を実践できる。		○	○									○	○		○
		3. 臨床で必要となる介助技術の基本技術をおこなうことができる。		○	○									○	○		○
卒業研究	臨床現場に出た後も、作業療法学を学び、研究し続ける姿勢を養うことを目的とし、その第一歩となる研究論文を完成させる。	1. 学生自身が興味を持った研究テーマを選択し、そのテーマに合った研究デザインの作成を行う。	○												○		○
		2. テーマに沿った資料収集、データ収集、分析法、表現法などを学ぶ。		○											○		○
		3. 出来るだけ発表とディスカッションの場を多く設け、議論しつつ、論理的に、かつ科学的に研究を進める方法を学ぶ。			○										○		○
総合作業療法学	作業療法士として仕事をしていくために必要不可欠な知識、技能をまなぶ。卒業後の生涯に渡って自らの職業能力を高め、医療専門職業人として質の高い医療を提供できるよう、主体的に学習を継続できる力を養う。	1. 専門職に必要な基本的知識について説明できる。	○		○								○		○		
		2. 専門職に必要な基本的技術を例示できる。		○										○	○		
		3. 作業療法士に必要な知識・判断力・洞察力の向上をはかる。			○								○				
教育学	教育とは何か、教育学とは何かについて、教育の諸相をとらえて考えていく。教育について、教育学に対する理解を深める。	1. 教育の諸相をとらえて考えれる。	○														
		2. 教育学に対する理解を深める。	○														
		3. 教育学的思考様式を身に付け、学びの基礎を培う。	○													○	